

# 世界のサステナブル投資ファンドの資金動向

## 2024年第3四半期

### 資金流入の緩やかな回復

モーニングスター・マネジャー・  
リサーチ  
2024年11月

#### 目次

- 概要
- グローバル
- 日本

水田 理沙  
モーニングスター・ジャパン  
マネジャー・リサーチ  
risa.mizuta@morningstar.com

#### 重要事項

Morningstarのアナリストの行為は、倫理規程/職業行為規範ポリシー、個人の証券等取引（またはこれに準ずる）ポリシーおよび投資調査ポリシーによって規定されています。利益相反に関する詳細については、以下をご覧ください。

<https://www.morningstar.com/company/disclosures>

#### 概要

モーニングスターでは四半期ごとにサステナブル投資を行うファンドの資金動向についてのグローバル・レポートを公表している。本日本語版レポートは2024年の第3四半期のグローバル・レポートの抜粋であり、サステナブル投資ファンドの市場動向の検証と、日本におけるサステナブル投資ファンドの資金動向、運用資産残高、また新規設定についてを取り上げる。

#### 主なポイント

- 世界のサステナブル投資ファンド全体の資金フローは引き続き回復基調にあり、2024年第2四半期の63億ドル（米ドル、以降特段の記載がない限り同様）の純資金流入に対して、2024年第3四半期では104億ドル（推定値）の純資金流入を記録した。
- 欧州のサステナブル投資ファンドは103億ドル以上の純資金流入があり、前四半期の111億ドルからわずかに減少した。
- 米国では、欧州とは対照的にサステナブル投資ファンドから純資金流出が続いたが、流出のペースは第2四半期は47億ドルに対し、23億と約半減した。
- 日本も米国と同様にサステナブル投資ファンドから純資金流出が続いており、純資金流出額は第2四半期の13億ドル（2,053億円）に対し、第3四半期は5.9億ドル（886億円）と減少となった。日本除くアジア全体でも純資金流入が見られた。
- 株価上昇により世界のサステナブル投資ファンドの資産運用残高は増加し、2024年9月末時点で6%増の約3.3兆ドルとなった。
- サステナブル投資ファンドの新規設定は下降線をたどり、2024年第3四半期の新規設定はわずか57本にとどまった。
- ファンドの償還やリブランディングの動きも継続して見られる。欧州では第3四半期に102本のサステナブル投資ファンドが償還・合併し、2024年累計で349本となった。リブランディングについては、113本のファンドが名称を変更したが、うち50本はESGのキーワードをファンド名称から外している。米国では合計12本のサステナブル投資ファンドが償還され、5四半期連続で新規設定ファンド数を上回った。
- 欧州におけるファンドの名称規則など、グリーン・ウォッシング防止のためなどの規制を定める期限が迫っており、今後数か月でサステナブル投資ファンドのユニバースにおいての変化が強まると予想される。

## 世界のサステナブル投資ファンド・ユニバース

世界のサステナブル投資ファンド・ユニバースは、目論見書またはその他規制当局への提出書類により、持続可能性、インパクト、または環境・社会・ガバナンスの要素に焦点を当てると表明しているオープンエンド型ファンドおよびETF（上場投資信託）を含んでいる。

本レポートでは、世界のユニバースを欧州、米国、その他の地域の国籍ごとのセグメントに分けている。カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、日本についてはより詳細なデータを掲載している。中国、香港、インド、インドネシア、マレーシア、シンガポール、台湾、タイ、韓国は資産規模が比較的小さいため、「アジア（除く日本）」として分類している。日本語版のレポートでは日本以外の詳細なデータは掲載していないため、各地域の詳細データについては、原文の英語版レポートを参照されたい。

ここからは、世界のサステナブル投資ファンドにおける直近の資金動向を検証し、2024年第3四半期の地域別の資金フロー、運用資産残高、新規設定について詳述する。以下の図表1は概要となる。

図表1 世界のサステナブル投資ファンドの概要

地域	フロー	フロー	残高		ファンド数	
	Q2 2024	Q3 2024	USD(10億米ドル)	%割合	本数	%割合
欧州	11.1	10.3	2,775	84	5,498	72
米国	-4.7	-2.3	353	11	595	8
アジア（除く日本）	3.1	2.5	64	2	619	8
カナダ	-1.4	-0.1	37	1	324	4
オーストラリア・ニュージーランド	-0.6	0.6	34	1	267	4
日本	-1.3	-0.6	24	1	306	4
<b>全体</b>	<b>6.3</b>	<b>10.4</b>	<b>3,287</b>		<b>7,609</b>	

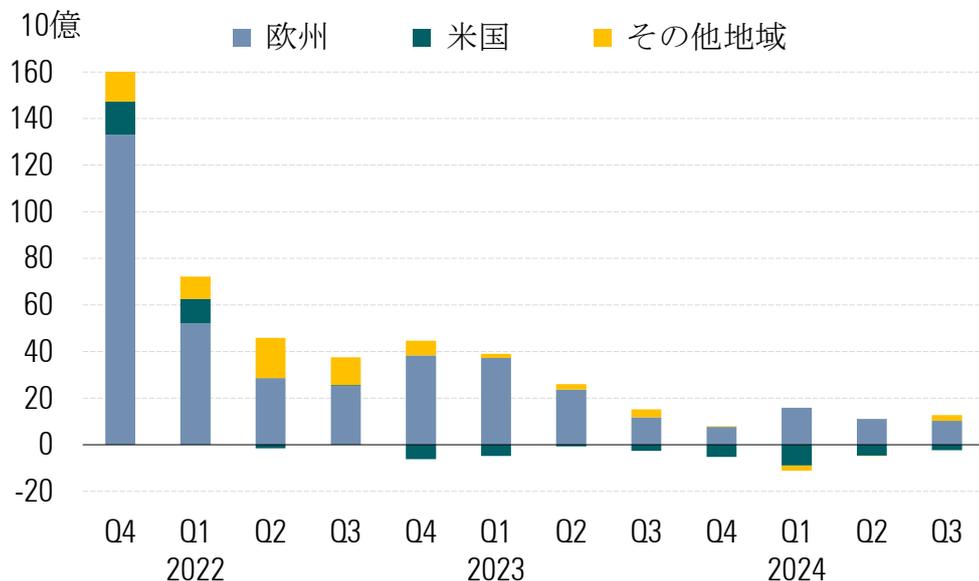
出所: Morningstar Direct、2024年9月末時点

### 世界のサステナブル投資ファンドの資金フローは緩やかな回復

2024年第3四半期では、世界のサステナブル投資ファンドへ引き続き純資金流入となった。第2四半期の63億ドルの純資金流入に対し、第3四半期は104億ドルの純資金流入となった。欧州の資金流入が前期比で若干の減少となったにもかかわらず、世界全体の資金流入が回復した主な要因は、米国、日本、カナダにおける資金流出が減速したことである。

サステナビリティの先進地域であり、サステナブル投資ファンドにとって世界最大の市場である欧州では、第3四半期の純資金流入額は104億ドルとなり、第2四半期の111億ドルに対しわずかな減少となった。一方、米国では、依然として純資金流出が続いているものの、純資金流出額は第2四半期の47億ドルから半減し、第3四半期は23億ドルとなり、資金流出が下げ止まる可能性を示した。

図表 2 世界のサステナブル投資ファンドの四半期資金純流出入



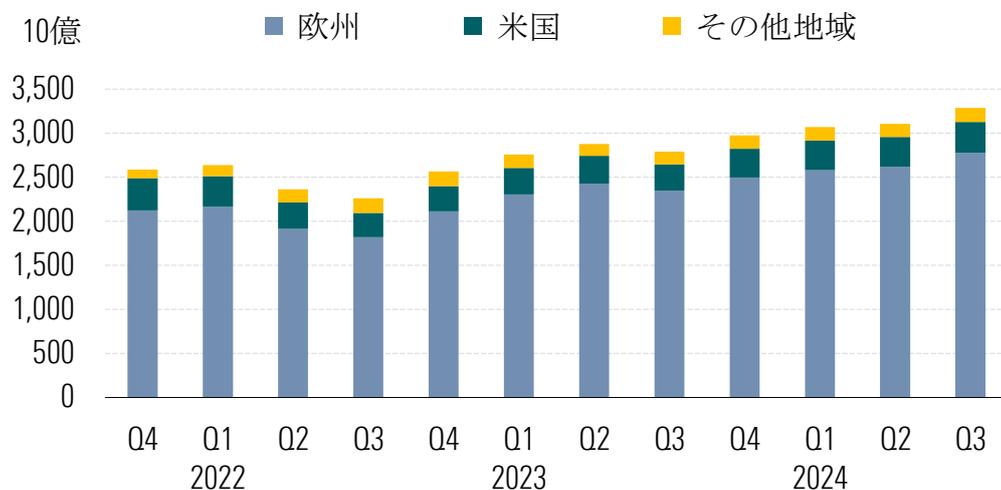
出所: Morningstar Direct、2024 年 9 月末時点

アジア太平洋地域のサステナブル投資ファンド・ユニバースでは、第 3 四半期はまちまちの結果となった。アジア（除く日本、中国）では 31 億ドルの純資金流入、台湾では 24 億ドルの純資金流入と大きく同ユニバースに貢献した。一方、日本では依然として流出が続いているものの、純資金流出額は第 2 四半期の 13 億ドルから、第 3 四半期は 5.9 億ドルと大きく減少した。オーストラリアとニュージーランドのサステナブル投資ファンドは約 6.4 億ドルの純資金流出となった。

### 世界の運用資産残高は最高値を更新

世界のサステナブル投資ファンドの 2024 年第 2 四半期末の運用資産残高は、横ばいであった過去 2 四半期の後、第 2 四半期の 3 兆ドルから 6% 増の約 3.3 兆ドルとなった。この伸びは市場のパフォーマンスと一致している。Morningstar グローバル株式指数は 6.6%、Morningstar グローバルコア債券指数に代表される債券市場は 6.9% とそれぞれ上昇した。欧州が世界のサステナブル投資ファンドの運用資産残高の 84%、次いで米国が 11% を占めている。

図表 3 世界のサステナブル投資ファンドの運用資産残高四半期推移

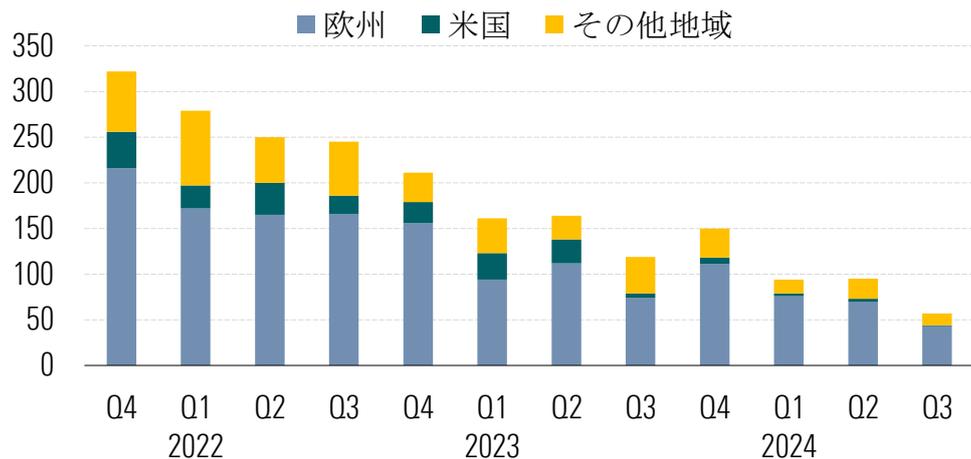


出所: Morningstar Direct、2024 年 9 月末時点

### 世界のサステナブル投資ファンドの新規設定

2024 年第 3 四半期も世界のサステナブル投資ファンドの新規設定は減少を続け、世界で新規設定数は 57 本と前例のない低水準となった。なお、今後のレポート執筆時点で、事後的により多くの新規設定ファンドがモーニングスターに追加報告されることがあり、57 本という数値が上方修正される可能性が高いことをご留意されたい。

図表 4 世界のサステナブル投資ファンドの新規設定数の四半期推移



出所: Morningstar Direct、2024 年 9 月末時点

2024 年の年初来の 9 ヶ月間では、世界全体で約 246 本のサステナブル投資ファンドが新たに設定された。前年の同期間での 444 本の新規設定と比べると大きな減少で

ある。過去 3 年間では多くの資産運用会社が市場の需要の高まりに対応するため、サステナブル投資ファンドのラインアップの中核商品を作るべく開発を急いでいたこともあったが、現在はより選別的かつ戦術的なアプローチで商品を設定する運用会社が増えていることもあり、この冷え込みは、サステナブルファンドの商品開発活動の正常化を反映しているともいえる。また、英国のサステナビリティ開示要件や欧州のサステナブル・ファイナンス開示規則など、欧州の規制の最終決定と実施を待っている運用会社も多い。

また、サステナブル投資ファンドに関しては、既存のファンドに対してファンド名に ESG 関連の用語の追加や削除を行うリブランディングが引き続き見られる。2019 年から 2022 年にかけては、ファンド名に ESG 関連の用語を追加する動きが強く見られたが、2023 年にはその流れが鈍化し、2023 年第 4 四半期以降は ESG 関連の用語をファンド名から削除するという新たな傾向が目立ってきている。欧州で運用商品を組成、展開する資産運用会社は、サステナブル投資ファンドの名称に関する欧州証券市場監督局のガイドラインに 2025 年 5 月までに準拠する必要があるため、今後 6 ヶ月の間にサステナブル投資ファンドのリブランディング活動が加速すると予想される。このガイドラインの目的は、投資家をグリーンウォッシングのリスクから守り、欧州で販売されるファンドの名称に特定の ESG 用語を使用する場合の最低基準を提供することである。

### ブラックロックがパッシブ・ファンドで首位に

以下では、サステナブル投資ファンドを世界的に展開している資産運用会社の上位会社の一覧を紹介する。世界最大の運用会社であるブラックロックは、2024 年第 3 四半期末時点で、ESG に特化したオープンエンド型ファンドおよび ETF の運用資産残高が 4,230 億ドルを超え、サステナブル投資の分野で圧倒的なリーダーとなっている。大きく離して 1,920 億ドルの運用資産残高を持つ UBS が次にランクインしており、運用資産残高が 1,870 億ドルの Amundi が僅差で次に第 3 位にランクインしている。

図表 5 サステナブル投資ファンドの運用資産残高の上位運用会社

総合		アクティブ運用		パッシブ運用	
運用会社名	資産残高 (10億米ドル)	運用会社名	資産残高 (10億米ドル)	運用会社名	資産残高 (10億米ドル)
BlackRock (incl. iShares)	423.3	BlackRock (incl. iShares)	103.8	BlackRock (incl. iShares)	319.5
UBS (incl. Credit Suisse)	191.5	Amundi (incl. Lyxor)	85.5	UBS (incl. Credit Suisse)	112.5
Amundi (incl. Lyxor)	187.4	Nordea	85.5	Amundi (incl. Lyxor)	101.9
DWS (incl. Xtrackers)	107.1	Natixis	81	Northern Trust	55.9
Swisscanto	102	UBS (incl. Credit Suisse)	79	Vanguard	55.3
BNP Paribas	88.1	KBC	60.9	Blue Horizon	47.8
Nordea	85.5	DWS (incl. Xtrackers)	59.4	DWS (incl. Xtrackers)	47.8
Natixis	83.8	Swisscanto	57.5	Swisscanto	44.5
KBC	61	BNP Paribas	55	Handelsbanken	38.4
Northern Trust	60.6	Allianz Global Investors	51.1	BNP Paribas	33.1
Vanguard	58.8	Pictet	48.3	State Street	27.9
Allianz Global Investors	51.1	Parnassus	40.3	Länsförsäkringar	22.2
Pictet	49.7	Union Investment	36	Legal & General	20.2
Handelsbanken	43.6	JPMorgan	35.3	Invesco	17
Parnassus	40.3	Goldman Sachs (incl. NNIP)	33.5	Eaton Vance	11.2
JPMorgan	38.5	AXA IM	32.5	Cathay Securities Investment Trust	10.6
Royal London	37.9	Royal London	30.2	HSBC	9.9
Eaton Vance	37.2	Vontobel	30	Scottish Widows	7.9
Union Investment	36	Robeco	29.8	Royal London	7.7
Goldman Sachs (incl. NNIP)	33.6	Schroders	28.8	Capital Investment Trust	7.7

出所: Morningstar Direct、2024 年 9 月末時点

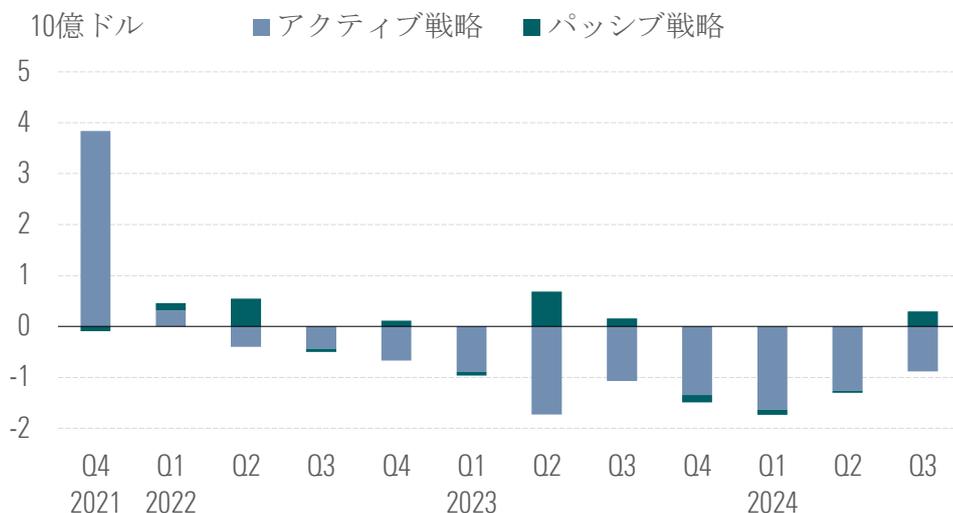
## 日本

## 資金フロー

2024 年第 3 四半期は、日本のサステナブル投資ファンド（公募追加型株式投資信託と ETF）は引き続き純資金流出となっているものの、純資金流出額は第 2 四半期の 13 億ドル（2,053 億円）に対し、第 3 四半期は 5.9 億ドル（886 億円）と大きく減少した。但し、これは 2024 年第 3 四半期に 400 億ドル（5.82 兆円）の純資金流入を記録した日本のファンド市場全体とは対照的な結果となる。

アクティブ運用を行うサステナブル投資ファンドは、10 四半期連続の資金流出となった。一方、パッシブ運用を行うサステナブル投資ファンドは 4 四半期ぶりの純資金流入となり、約 3 億ドル（415 億円）の流入を記録した。第 3 四半期ではグローバル X グローバルリーダーズ-日本株式 ETF が 2 億 9,000 万ドル（405 億円）の資金流入を獲得し、資金流入額で首位となった。一方、アセットマネジメント One のグローバル ESG ハイクオリティ成長株式ファンド（為替ヘッジ無し）は引き続き純資金流出額の最大のファンドとなり、2 億 2268 万ドル（326 億円）の純資金流出に見舞われた。これに続き、三菱 UFJ アセットのベイリー・ギフォード インパクト投資ファンドと三井住友 DS アセットのイノベティブ・カーボンニュートラル戦略ファンドはそれぞれ 5,518 万ドル（82 億円）と 4,887 万ドル（72 億）の純資金流出となった。

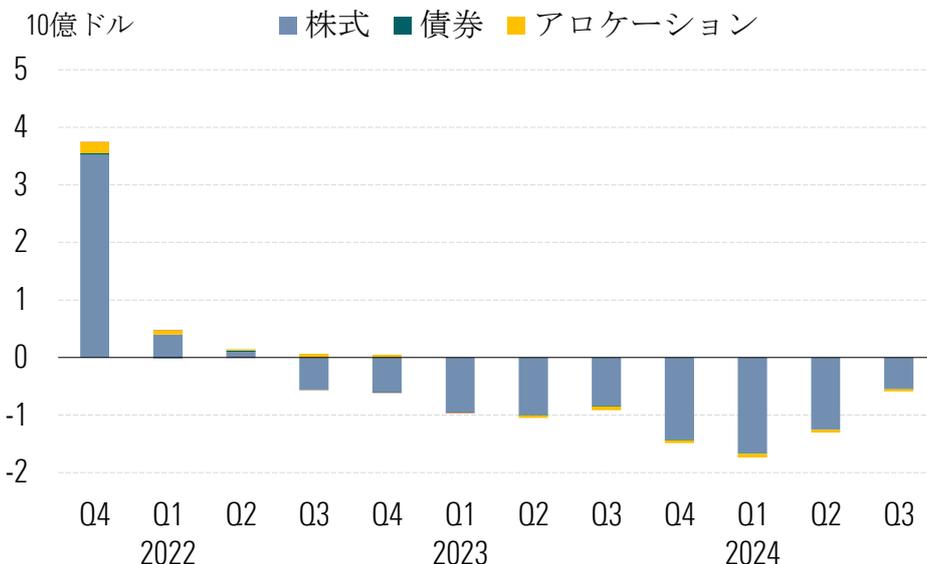
図表 6 日本のサステナブル投資ファンドの純資金流入



出所: Morningstar Direct、2024 年 9 月末時点

日本のサステナブル投資を行う株式ファンドは 2024 年第 3 四半期に 5 億 4,000 万ドル (814 億円) の純資金流出となり、第 3 四半期における流出額のほぼ全額を占める結果となった。これは日本籍のサステナブル投資ファンドの 92%が株式ファンドであることを考えると、驚く結果ではない。

図表 7 日本におけるサステナブル投資ファンドの資産クラス別純資金流入

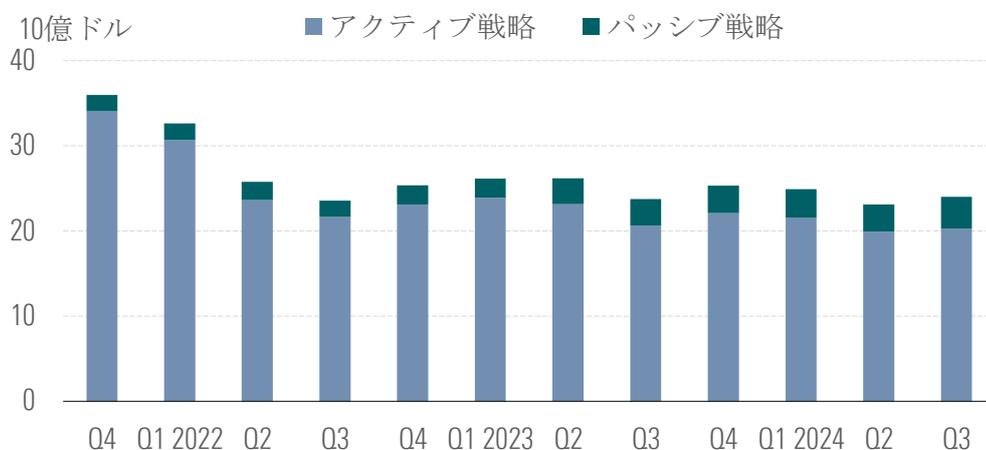


出所: Morningstar Direct、2024 年 9 月末時点

## 資産残高

日本籍のサステナブル投資ファンドの第3四半期末の総資産残高は240億ドル（3.7兆円）であった。アクティブ運用ファンドが依然として大部分を占めており、サステナブル投資ファンドの運用資産残高全体の84%を占めている。また前述の通り、大半が株式ファンドである。債券ファンドにおいては、サステナブル投資はまだ未開発の市場であると考えられており、運用資産残高はまだわずか1億7千万ドル（246億円）である。

図表 8 日本におけるサステナブル投資ファンドの運用資産残高

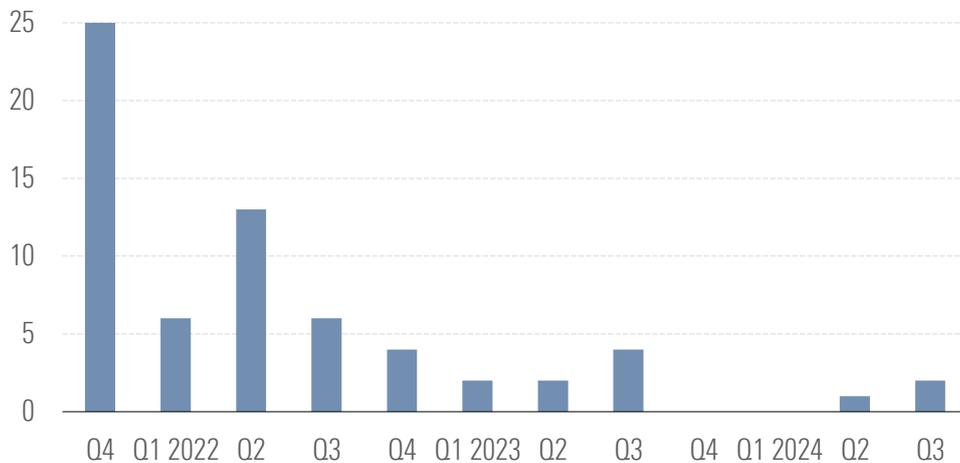


出所: Morningstar Direct、2024年9月末時点

## 新規設定

サステナブル投資ファンドの日本市場においては、2024年9月末までの3か月間の間に2本の新規設定があった。ウェリントン・企業価値共創世界株ファンド A コース（野村 SMA・EW 向け）とウェリントン・企業価値共創世界株ファンド B コース（野村 SMA・EW 向け）は2024年8月に新規設定され、ウェリントン・グローバル・スチュワードへ投資を行うファンズ・オブ・ファンズ方式で運用されている。同戦略は、経営陣や取締役がスチュワードシップへの優れた取り組みを見せる企業の株式に投資を行なう。同戦略ではスチュワードシップを、企業が収益を追求するうえで、利害関係者（顧客、従業員、地域社会、サプライチェーン）にどのように利益を配分するか、また環境、社会、ガバナンスに関連するリスク機会をどのように経営戦略に取り入れるかであると定義している。

図表 9 日本におけるサステナブル投資ファンドの新規設定本数



出所: Morningstar Direct、2024 年 9 月末時点

### 規制動向

日本では、第 3 四半期には特段の新しい規制上の動きは報告されていない。金融庁は引き続きワーキンググループを定期的開催し、サステナブル投資についての意見交換を様々な市場参加者や官民の多様なプレイヤーと行っている。

## Morningstar Manager Research Services ディスクロージャー (日本)

### モーニングスター・マネジャー・リサーチについて

モーニングスター・マネジャー・リサーチは、運用商品の戦略に対し、独立の立場からのファンダメンタル分析を提供しています。運用担当者 (People)、運用プロセス (Process)、運用会社 (Parent) の 3 つの主要な評価軸についてのアナリストのリサーチに基づく見解は、モーニングスター・メダリスト・レーティングとして公表されます。世界中のリサーチチームが、投資商品、資産クラス、および各地域にまたがる戦略について、詳細なアナリスト・レポートを発行しています。メダリスト・レーティングは、意見であり、事実の表明するものではなく、将来のパフォーマンスを示唆または保証するものでもありません。

### モーニングスター・マネジャーリサーチ・サービスについて

モーニングスター・マネジャーリサーチ・サービスは、モーニングスターのファンドリサーチ・レポート、レーティング、ソフトウェア、ツール、およびモーニングスター独自のデータの提供と、モーニングスターのマネジャーリサーチ・アナリストへのアクセスを同時に実現させています。銀行、ウェルスマネジャー、保険会社、政府系ファンド、年金基金、エンダウメント (寄贈基金)、財団などの機関投資家が、内部で行うデューデリジェンスを補完する機能を提供しています。モーニングスターのマネジャー・リサーチ・アナリストは、Morningstar, Inc. のさまざまな完全子会社 (Morningstar Research Services LLC (USA)、Morningstar UK Ltd、および Morningstar Australasia Pty Ltd が含まれますが、これらに限定されません) に所属しています。

### お問い合わせ先

Morningstar Manager Research Services

[ManagerResearchServices@Morningstar.com](mailto:ManagerResearchServices@Morningstar.com)



モーニングスター・ジャパン株式会社

東京都港区新橋 1-1-1 日比谷ビルディング 6 階

©2024 Morningstar. All Rights Reserved. 別段の合意がない限り、本資料は配信者の所在する国においてのみ使用することができます。本資料に記載されている情報、データ、分析、意見は、投資助言ではなく情報提供のみを目的としたもので銘柄の売買を推奨するものではありません。また、情報の正確性や完全性を保証するものでもありません。本資料の内容は、記載された日付時点のものであり、予告なく変更されることがあります。モーニングスターは、法律により定められている場合を除き、本資料の情報、データ、分析、意見を利用して行いたいかなる投資の判断、損失、損害に責任を負いません。本資料にはモーニングスターの専有情報が含まれており、モーニングスターから事前の書面による承諾がない限り、当資料の一部あるいは全ての複製ならびに再配布等の使用はできません。過去のパフォーマンスは、必ずしも金融商品の将来のパフォーマンスを示唆するものではありません。リサーチに関するライセンス利用のお問い合わせは+1 312 696-6869までご連絡ください。